



日時	2026年1月18日 9:30					試合形式	45分×2set 30分×1set			
会場	ピーラインフットボールセンター始良					ピッチ状態	天然芝			
日本代表			5	1 1set 3	2 2set 3	8	CSKA鹿児島			
				3 3set 3						
警告・退場	3set	2set	1set	チーム合計			1set	2set	3set	警告・退場
	6	7	4	17	シュート	22	6	14	2	
	3	8	3	14	GK	9	4	2	3	
	2	1	3	6	CK	4	1	3	0	
	1	0	0	1	直接FK	2	1	1	0	
	1	0	1	2	間接FK	3	1	1	1	
	1	0	1	2	(オフサイド)	3	1	1	1	
	0	0	0	0	PK	0	0	0	0	

【日本】

1 set



2 set



3 set



【CSKA 鹿児島】

1 set



2 set



3 set



【得点経過】

1 s e t

4分[CSKA 鹿児島]NO.9

39分[CSKA 鹿児島]NO.22

44分[日本]CKの混戦から横井がシュートを放ちゴール。

2 s e t

64分[CSKA 鹿児島] NO.30

67分[CSKA 鹿児島] NO.4

69分[日本]CKから変化をつけ、横井のインスイングのクロスボールが直接ゴール。

79分[CSKA 鹿児島] NO.14

3 s e t

3分[CSKA 鹿児島]OG

9分[CSKA 鹿児島] NO.9

12分[日本]大久保のクロスボールを幾島が合わせてゴール。

15分[日本]水内が相手のビルドアップからボールを奪い、GPをかわしゴール。

17分[CSKA 鹿児島] NO.30

26分[日本]梅村が相手GPからボールを奪いゴール。

【交代】

1 s e t

26分[日本] IN 奥田 ⇔ OUT 犬塚

34分[日本] IN 松野 ⇔ OUT 下鶴

2 s e t

45分[日本] IN 阿久津 ⇔ OUT 犬塚

54分[CSKA 鹿児島] IN NO.4 ⇔ OUT NO.54

62分[日本] IN 武田 ⇔ OUT 福原

[CSKA 鹿児島] IN NO.67 ⇔ OUT NO.20

IN NO.11 ⇔ OUT NO.24

64分[日本] IN 結城 ⇔ OUT 大久保

IN 水内 ⇔ OUT 阿久津

67分[CSKA 鹿児島] IN NO.92 ⇔ OUT NO.21

77分[日本] IN 梅村 ⇔ OUT 水内

79分[日本] IN 小川 ⇔ OUT 松野

81分[日本] IN 徳村 ⇔ OUT 原田

3 s e t

12分[日本] IN 松野 ⇔ OUT 佐藤

IN 武田 ⇔ OUT 福原

IN 犬塚 ⇔ OUT 越智

IN 水内	↔	OUT 幾島
IN 阿久津	↔	OUT 大久保
IN 梅村	↔	OUT 奥田
1 4分[CSKA 鹿児島]	IN NO.30	↔ OUT NO.18
	IN NO.22	↔ OUT NO.4
	IN NO.29	↔ OUT NO.44
	IN NO.23	↔ OUT NO.99
	IN NO.10	↔ OUT NO.9

ゲームコンセプト

全員攻撃/全員守備、良い守備から攻撃へ、90分 total の戦い

攻撃コンセプト

- ・中央突破(2人はDF間突破+3人コンビネーション)
- ・サイド崩し(ソロ)(コンビネーション)(ニアゾーン)
→ニア・プルバック・ファー
- ・ビルドアップ
→少ないタッチ+パススピード(サイドチェンジ・意図的な緩急)+サポート

守備コンセプト

- ・1vs1で絶対に負けない
- ・前線、中盤の守備、ゴール前の守備(PAに入らない・2ブロックコントロール)
- ・クロス対応(同一視・人をつかまえる・ボールに寄せる・GKと連携)
- ・プレスバッック

切り替え

- ・【守→攻】カウンター、1タッチプレー、直線(逆サイド)に飛び出す、インターセプトパス
- ・【攻→守】状況に応じ「ゴールを守る」が優先

ゲーム内容

2日連続で90分+30分のゲームを行った。前日のゲームで浮き彫りになった課題を修正するための重要な一戦であった。

試合開始からボールホルダーへのプレッシャーが十分にかかっていない中で、相手に前線からボールを奪おうとしたが、その結果、背後を取られるシーンが目立った。前半4分、相手の素早いサイド攻撃に対して対応が遅れ、早々に失点を許す。サイドへ追い込む場面でも、逆サイドへの展開を許し、相手に前進を許す形となった。39分、再度サイド攻撃からゴールを許し、0-2となる。試合終了間際の44分、攻撃のコーナーキックの混戦から、横井が放ったシュートが見事にゴールへ吸い込まれ、1点を返した。

後半に入り、相手のプレスへの対応に慣れ、徐々にボール保持からゴール前への攻撃の場面が増えてきた。しかし、後半64分にGP原田のフィードが短くなったところを相手にクリアされ、立て続けのミスから失点に繋がり、簡単にゴールを許してしまう。さらに67分には、ディープの位置からのクロスボールをコントロールされ、見事なゴールを奪われ、立て続けに失点を喫する。直後の69分、素早い攻守の切り替えから攻撃に転じ、越智のゴール前シュートがCKへと繋がる。そのCKからチャンスを作り、横井のクロスボールが再びゴールに

吸い込まれ、2-4と反撃を開始。しかし、10分後、左サイドでのワンツーからペナルティーエリア内に侵入され、逆サイドネットにシュートが決まり、再び2-5となる。その後も反撃を試みるもゴールを奪うことはできず、試合は2-5のスコアで終了。

3セット目には、フォーメーションを1-4-2-3-1に変更し、メンバーも交代。疲労の影響もある中、複数の失点を喫するも3得点を奪い、3-3の結果となった。全体を通しては課題がいくつか見られたものの、選手個々の特徴が表れるシーンも多く、今後の成長に期待が持てる内容であった。